

inc. percussion days 2020 in kunitachi

8/17(月) - 19(水)

くにたち市民芸術小ホール

Xenakis et le Japon in Tokyo

「クセナキスと日本」

生涯「能」に憧れを抱いていたクセナキスのルーツを辿り、現代の日本とのつながりを考える。母国ギリシャからユーラシア大陸を通して日本まで、原点に立ち還り私たちのオリジン「日本」を見つめ直す。

Featured Artists

中所宣夫(能楽師)・田邊恭資(能小鼓方大倉流)・中川賢一(ピアノ)・木村麻耶(箏)・LEO(箏)・本條秀慈郎(三味線)
長谷川将山(尺八)・悪原 至(打楽器)・加藤訓子(打楽器)

ヤニス・クセナキス作曲「18人のプレイアデス」野外ショーイング (無料イベント)

17日 / 12:30- peaux 18日 / 12:30- metaux 19日 / 12:50- claviers

19日 / 12:10- 芸小主催ランチタイムコンサート

演奏 : inc. percussionists 2020

悪原 至・東 廉悟・伊藤すみれ・齋藤綾乃・佐藤直斗・篠崎陽子・高口かれん・高橋典子・戸崎可梨
富田真以子・中野志保・新野将之・原 順子・藤本亮平・古屋千尋・細野幸一・眞鍋華子・三神絵里子

主催 NPO芸術文化ワークス 共催 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団
助成 (公財)東京歴史文化財団 アーツカウンシル東京 (公財)野村財団 (公財)全国税理士共栄会文化財団
お問い合わせ 芸術文化ワークス | info@npo-artsworks.org | tel. 080.5075.5038



XENAKIS ET LE JAPON

PLEIADES

SUMMER 2020
KUNITACHI
TOKYO

SESSION AUG 14-16TH

inc.
Produced by
Nannan Kato Arts Project

COVID19 - 今も私たちを目に見えない恐怖と不安に追いやられ、全世界を揺るがしている。パンデミック。病原体だけでなく、経済から人々の心にまで病を拡大する。不平等、暴動、人種問題、排外主義、そこにトルネード、ハリケーン、台風や洪水、地震など自然災害が押し寄せ、地球全体、私たちの日常を脅かす。記念すべきだった2020年に我々が直面している事態は「いよいよ地獄とやわん、虚無とやわん」。自然に逆らい、人間が創り上げてきた都会の良い社会に対する天罰か、この難関を果たして我々は乗り越えられるのか？ 私たち芸術家もどれだけが2021年まで生き残れるのか？

2020年を目指して積み上げてきた大作「プレイアデス」、5年前、inc.というアーティスト育成事業を始めた当初から誤ってきた難題である。20世紀の偉大な作曲家ヤニス・クセナキスは常に「限界へ挑戦せよ」と人間の可能性に訴えてきた。クセナキスが生きていた頃、それは第二次世界大戦の真只中、銃を手に戦った学生時代、母国ギリシャからフランスに渡り、音楽と出会い、生涯をパリで過ごす。その創造物は宇宙にまで到達せんばかり。そんなクセナキスが生涯「日本」に憧れを抱いていたという。今こそ私たちのオリジン(真髄)を見つめ直す時かもしれない。

クセナキスの音楽と思想が、私達の手により、音の渦となり、きっと人々に勇気とエネルギーを与えてくれるだろうと期待する。これからの試練に、たくましく、思いやりを持ち、共存しながら未来を切り開いてゆけるよう、「若者よ、立ち上がれ！」と心からエールを送りたい。

加藤訓子
アーティストックディレクター

8/14-19/2020

くにたち市芸術小ホール
〒186-0003 国立市富士見台2-48-1

5TH ANNIVERSARY 2016-20 SEASONS

MON
17
AUGUST

12:30
プレイアデス・ショーイング 1
- Peaux
from PLEIADES by I. XENAKIS
古屋千尋・富田真以子・東 廉悟
新野将之・細野幸一・齋藤綾乃

13:00
古川雅紀 LINN Japan
LINN AUDIOギャラリー 1
「クセナキス時代の音を聴く」



能とクセナキス

「雨ニモ負ケズ」

原作:宮沢賢治 能作:中所宜夫
ヤニス・クセナキス - ルボン a
Iannis Xenakis - Rebonds a. (1987-89)

「花を奉る」

原作:石牟礼道子
ハウエル・デイビス - パールグラウンド
Hywel Davies - Purl Ground (2003)
即興曲 / まほろしの花・花を奉る

出演: 中所宜夫 (能楽師)
田邊恭資 (能小鼓方大倉流)
加藤訓子 (打楽器)

「花を奉る」 原作:石牟礼道子
春風萌すといえども われら人類の劫塵(こむ)いまや果なりて
三界いんわん方なく昏し
まなこを沈めてわずかに日々を忍ぶに なにに誘わねるにや
虚空はるかに 一連の花 まさにひらかんとするを聴く
ひとひらの花弁 彼方に身じろくを まほろしの如くに視れば
常世なる仄明りを 花その懐に抱けり
常世の仄明りとは あかつきの連沼にゆるる雷のごとくして
世々の悲願をあらわせり かの一輪を拝受して
寄辺なき今日の魂に奉らんとす
花や何 ひとそれぞれ 涙のしずくに洗われて咲きいつるなり
花やまた何 亡き人を偲ぶよすがを探さんとするに 声に出せぬ胸底の想いありそを
とりて花となし み灯りにせんとや願う
灯らんとして消ゆる言の葉といえども いずれ冥途の風の中に
おのおのひとりゆくときの花あかりなるを この世をえにしといひ 無縁ともい
その境界にありて ただ夢のごとくなるも 花
かえりみれば まなうらにあるものたちの御形 かりそめの姿なれども
おろそかならず
ゆえにわれら この空しきを礼拝す
然して空しとは云わず 現世はいよいよ地獄とや云わん 虚無とや云わん
ただ滅亡の世せまるを待つのみか このにおいて われらなお
地上にひらく 一輪の花の力を念じて合掌す

TUE
18
AUGUST

12:30
プレイアデス・ショーイング 2
- Metaux
from PLEIADES by I. XENAKIS
高口かれん・藤本亮平・三神絵里子
中野志保・伊藤すみれ・戸崎可梨



13:00
inc.IV
「木村麻耶 箏リサイタル」

高橋悠治 - 橋をわたって
Yuji Takahashi (1938-) - While I was crossing the bridge (1984) -
J.S.バハ - 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ
第2番より「シャコンヌ」
J.S. Bach - Sonatas and Partitas for Solo Violin No.2 Chaconne (1720)
光崎校枝 (生年不詳-1853頃) - 五段砧 (19世紀半頃)
Mitsusaki Kengyo - Godanginuta
ヤニス・クセナキス - 入陽
Iannis Xenakis (1922-2001) - Nyuyo (1985)
共演:長谷川将山(尺八)・本條秀慈郎(三味線)・LEO(箏)



木村麻耶 (箏)
3歳より橋本はるみ氏に師事。桐朋学園芸術短期大学在学中に野坂恵子氏、滝田美智子氏に師事。第17回賢順記念くめ全国争曲祭にて賢順賞受賞等、幼少より受賞歴多数。国内外からの招聘も多くあり、ラジオ、TV、この音とまれ!のCD等、多数参加。サントリー芸術財団第14回佐治三賞受賞。4plus、紡く糸メンバー。

長谷川将山 (尺八)
神奈川県大和市出身。藤原道山に師事。東京藝術大学大学院(修士課程)音楽研究科修了。同声会賞受賞。(公財)都山流尺八楽会 師範。藤原道山尺八アンサンブル「風雅竹韻」、Sony Music Entertainment(「STAND UPIORCHESTRA」)メンバー。

本條秀慈郎 (三味線)
本條秀太郎師に師事し本條秀慈郎の名を許される。2019年ロンドンウィグモアホールリサイタルデビュー。坂本龍一氏委嘱作品や藤倉大三味線協奏曲演奏。大野和士指揮都響をはじめとして、世界各国のアンサンブル・オーケストラと共演。BBCラジオやニューオータムにも取り上げられる。文化庁文化交流使。

LEO -今野玲央 (箏)
1998年横浜生まれ。カーティス・バタソン氏、沢井一恵氏に師事。19歳でメジャーデビュー以降、計3枚のアルバムをリリース。MBS「情熱大陸」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等へ出演。「第29回出光音楽賞」、「第68回神奈川文化賞未来賞」受賞。現在、沢井一恵氏に師事。東京藝術大学在学中。

14:00

中川賢一 (ピアノ)
レクチャーコンサート 1
+Showing (Claviers)

LECTURE CONCERT



「クセナキスへの影響」

ヤニス・クセナキス - 六つのシャンソン
Iannis Xenakis (1922-2001) - SIX CHANSONS pour piano (1951)
オリヴィエ・メシアン - 四つのリズムエチュードから第二番
音価と強度のモード
Olivier MESSIAEN (1908-1992) - Quatre Etudes de rythme No.2
Mode de Valeurs et d'Intensités (1949)
ヤニス・クセナキス - ヘルムヘーヴィオのための記号論的音楽
Iannis Xenakis (1922-2001) - HERMA Musique symbolique pour piano (1961)

中川 賢一 ピアニスト・指揮者
桐朋学園大学音楽学部でピアノと指揮を学び、卒業後、ベルギー・アントワープ音楽院ピアノ科を首席修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。帰国後は、ソロ、室内楽、指揮で活躍する他、国内外の様々な音楽祭に出演。武生国際音楽祭には2001年よりほぼ毎年招聘されている。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」ピアニスト、指揮者。お茶の水女子大学、及び 桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。
<http://www.nakagawakenichi.jp>

WED
19
AUGUST

12:00
野外パフォーマンス
オクホ - ヤニス・クセナキス
Okho for 3 djembes (1989) - Iannis Xenakis (1922-2001)
悪原 至・齋藤綾乃・新野将之

12:10
芸小主催ランチコンサート
一芸塾参加者~inc.percussionists

12:50
プレイアデス・ショーイング 3
- Claviers
from PLEIADES by I. XENAKIS
悪原 至・篠崎陽子・原 順子
伊藤すみれ・齋藤綾乃・眞鍋華子

13:00
古川雅紀 LINN Japan
LINN AUDIOギャラリー 2
「ギリシャ〜日本へ・音楽の旅」



12:10 エントランス
LUNCH TIME CONCERT

芸小主催ランチコンサート
演奏:一芸塾 & inc.パーカッションリスト

富田真以子 with 一芸塾 Maico Tomita & ICHIGEIJUKU
一芸塾パフォーマンス

東 廉悟 Rengo Azuma
ケーシー・カンジェローシ - メディテーションNo.1
Casey Cangelosi (1982) - Meditation No.1 (2011)

眞鍋華子 Hanako Manabe
赤とんぼ - 山田耕祥/布谷史人編曲
Kosaku Yamada (1886-1965) arr.Fumito Nunoya (1979-) - Red Dragonfly (1927)

篠崎陽子 Yoko Shinozaki
「日本の四季の歌メドレー」より - ベチカ、もみじ - えんどうまりこ編曲 -
Japanese four season's medley for Marimba solo(2018) - arr. Mariko Endo (1994-)

三神絵里子 Eriko Mikami
エマヌエル・セジヨルネ - ナンシー
Emmanuel Sejourne (1961-) - Nancy (1989)

戸崎可梨 (pf) & 細野幸一 Karin Tozaki & Koichi Hosono
アレクセイ・ゲラシメズ - ピアツォノーレ
Alexej Gerassimez(1987-) - Piazonore(2015)

佐藤直斗 Naoto Sato
ヤニス・クセナキス - ルボン b
Iannis Xenakis (1922-2001) - Rebonds b. (1987-89)

14:00

inc. XXV.
悪原 至
レクチャーコンサート 2
+Showing (Peaux)

LECTURE CONCERT



「クセナキス打楽器作品」

ヤニス・クセナキス - プサッパ
Iannis Xenakis (1922-2001) - Psappha (1975)
ヤニス・クセナキス - ルボン a. b.
Iannis Xenakis (1922-2001) - REBONDS a.b. (1987-89)

悪原 至
国立音楽大学を矢田部賞受賞し卒業。同大学院修士課程修了、同時に最優秀賞受賞。同大学院博士後期課程修了。2013年より定期的にソロリサイタルを開催。2017年にALM RecordsよりCD「悪原至×打楽器」をリリース。第23回日本クラシック音楽コンクール第一位、第16回KOBE国際音楽コンクール最優秀賞受賞など国内4つのコンクールで第1位を受賞。国立音楽大学附属中学・高等学校非常勤講師。CANOPUSエンターテインメント・フォニックス・レフレクション、Vivid Brass Tokyoメンバー。

inc. とは、
パーカッションist加藤訓子が主宰するアーティスト・インキュベーションを目的とした次世代若手演奏家育成プログラムです。アーティストック・ディレクターとして、加藤訓子は、これまで国際的に培ったプロフェッショナルとしての活動と経験を活かし、若手演奏家の育成と将来につながる機会を創造してゆきます。

「自分が何ができるのか、何をやりたいのか、自分を見つめ、そして楽器に向かう。自分の中にあるものを形にする。実際にやってみること、身体から吐き出すこと、そして人前にさらすことが大事なのです。」

「良いも悪いも、人の感じ方は様々。表現も音楽も皆違っています。演者も聴衆も自分でそれぞれに感じたことを口にしてみる。その場で色んな意見を交わし、互いに触発しあう。皆さんと共にチャレンジングな若者を応援するプロジェクトです。」

加藤訓子
アーティストック・ディレクター